

学習シラバス (家庭) 科

科目名	単位数	学年・類型
家庭基礎	2	第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>1 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して様々な人々と協働する実践力を育てます。</p> <p>2 よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てます。</p>
---------	--

2 学習計画等

	学習内容	学習のねらい
1 学期	1章 これからの生き方と家族	家族に関する社会問題についての理解を深め、一生を見据えた家族や家庭生活と社会での自分の在り方について考えます。
	2章 次世代をはぐくむ	乳幼児の生活を理解し、親の役割と子育て支援について学び、子どもを育てる責任について考えます。
	3章 充実した生涯へ	高齢者を支える社会のしくみや高齢化社会の現状とその課題について理解します。
	4章 とともに生きる	社会保障や福祉等の社会を支える仕組みを理解し、家庭や地域・社会において共に助け合いながら生きることについて考えます。
2 学期	ホームプロジェクトの発表	ホームプロジェクトの発表・相互評価を行い、生活を見直し、自分自身の生活能力を高めることにつなげます。
	5章 食生活をつくる	食品の栄養的特徴と調理上の性質について理解し、献立作成に活かすとともに、調理実習を通して調理法の要点と調理の基礎技術を身に付けます。また、食の安全や衛生、環境に配慮した食生活について学び、実践できるようにします。
	6章 衣生活をつくる	購入から活用、手入れ、保管、再利用、廃棄までを考えた被服計画の必要性について理解し、環境や倫理に配慮した衣生活を実践できるようにします。
3 学期	7章 住生活をつくる	一生を見通してライフステージやライフスタイルに応じた住居計画や住居選択の方法について考えます。
	8章 経済生活をつくる	一生を見据えた家計運営の必要性、契約時のトラブルその解決法について理解し、環境や倫理に配慮した消費行動が実践できるようにします。

3 評価の観点及び内容、評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ホームプロジェクト作品 ・授業の活動への取組 ・ルーブリック評価
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業の感想の内容 ・ホームプロジェクト作品 ・ルーブリック評価